

発見の手がかりと 対応のポイント

高齢者虐待は、家族の中で起きていることが多く、高齢者自身が家の恥として隠す傾向があります。状況の悪化を予想して、第三者に助けを求めることができない場合もあります。そのため、関係者は高齢者の人権を尊重し、虐待が起きている状況や虐待につながる危険な状態にいち早く気づき、適切に対応することが大切です。

平成16年度に行われた静岡県の調査によると、虐待の可能性に気づいたきっかけとして、

- ①高齢者の言動 ②虐待者の言動 ③高齢者の身体状況
④高齢者の表情や精神状況 ⑤高齢者の居宅内の状況

などが上位を占めています。虐待のサインが必ず虐待の事実と結びつくわけではありませんが、状況が悪化すると虐待にエスカレートしていく危険性が高かったり、現に虐待が起きている可能性があります。

地域で暮らす高齢者に接する人は、だれでも高齢者虐待を発見する可能性があります。中でも高齢者の医療、保健、福祉の関係者は、早期に気づくことのできる立場であることを認識し、自分のかかわる高齢者や、地域で見聞きする情報を高齢者虐待の危険なサインとしてキャッチしましょう。

虐待を予防する観点から、早期に虐待の危険サインに気づき、その状況が悪化しないように素早く対応することが大切です。それには、日ごろの高齢者の生活状況をよく知り、どこに変化が生じたのか気が付かなければなりません。また、市町の窓口や地域包括支援センターに相談し、高齢者への援助者としての役割を果たすことが大切です。

ここでは、高齢者虐待を発見する手がかりと、対応のポイントをお伝えします。



高齢者の身体的な状況から

高齢者虐待の発見の手がかり

- 体に不自然なあざや傷、やけどの跡がある(太ももや上腕の内側、背中、時間の経過した古いあざと新しいあざの混在)
- けがや傷が治療されていない
- 栄養失調・脱水(皮膚が乾燥しきっている)・衰弱の状態にある
- 体重が減少している
- 体に縛られた跡や拘束されていた跡がある
- かなりの床ずれや潰瘍ができています
- 異臭がする
- 下着や衣服がぬれたり、汚れたままとなっている。おむつが交換されていない。衣服を脱がせたままとなっている
- 髪の毛やひげが伸び放題となっている
- つめが伸びていて不衛生
- 入れ歯や、眼鏡などが使えない。壊れたままとなっている
- いつも同じ服を着ている。汚れたり破れたりした服を着ている。季節に合わない服装
- 薬を飲ませない。医療を受けさせない
- 肛門や生殖器に異常(出血、傷、痛み、かゆみ)がある。性病にかかっている
- 肛門や生殖器について、話題や援助を避ける
- 座位や歩行が不自然又は、困難な時がある

対応のポイント

- 本人にあざや傷、やけどの原因等を尋ねる(問い詰めない)
- 「転んでしまった」「ぶつけた」などのあざの説明や声の感じ、表情などに不自然さがないか観察する。あざの形や色、場所や程度、大きさなどを確認する
- 記録は客観的・具体的に記入する。「大きな」より「目の周りに5cm×5cm程度の紫色のあざ」、「右の太ももの内側につねったような跡が3か所赤くなっている」など。また、「かわいそう」などの感情的な表現は避ける
- 継続してあざなどが確認される場合には、時期、内容、頻度や程度を記録する
- どのような時に暴力があるのか尋ねる
- 受診の必要性があれば、受診を勧める
- 全身の状態を観察、体重はいつから何キログラム減少したのか記録する
- 目に見えない痛みの程度は、本人の訴えを聞く
- 危険なサインが継続的にあるのか、訪問するたびに確認されるのか、客観的にいつ、どうだったか記録する
- 本人はどうしたいと考えているのか尋ねる